

自分の中の小さくとも新しい興味の芽を大切に

生涯学習開発財団理事長 松田妙子

ライフ・ラーニング・メンバーズの皆様、あけましておめでとございます。新しい年を迎え、日ごろより財団の活動にご賛同いただき感謝申し上げます。

私は昨年10月3日に88歳の米寿を迎えました。周りの皆様からたくさんのお祝いの言葉をいただいたことはうれしく思っておりますが、私にとって年齢は単なる数字ではありません。自分が好きな数字を選んで年齢にすれば良いのとさえ思っています。普段から申し上げているとおり、何かを始めるのに年齢は関係ありません。節目の誕生日を祝ってもらいながら、さらに強く思いました。

私は常々、自分の一生涯を、白の時期、青の時期、そしてオレンジの時期と分けていると申してきました。人生の

ステージを、年齢に囚われることなく、目の前に広がる美しい色で表現していたいと考えたのです。会員の皆様もぜひ、節目ごとに、ご自分の大好きな色で人生のキャンパスを塗っていただければと思います。

本誌の次ページにて紹介しておりますが、財団では昨年、21世紀最大の発見になるかもしれないとニュース等で言われている、ニコラス・リーヴス氏の研究・調査に助成をしました。大発見の感動を皆様と共有できるかもと想像するだけでワクワクします。リーヴス氏はインタビューの中で、小さな取っ掛かりが世紀の大発見につながる可能性もあるのだから、自分の中のどんな小さな興味でも大切にしないでほしいと話しておられます。まさにそれは、当財団が伝えたい理念であり姿勢でもあります。

私は財団設立当初より「学び続けることの大切さ、学びを通して社会との関わりを持ち続けることの大切さ」を訴えて参りました。米寿と言われる今でも、新たなチャレンジをしたいと心から思っています。

“生涯学習”のテーマは限りなく広く、全てのものが対象になります。財団では本年も、学び続け社会に役立つとする人を応援し、引き続きシンポジウムや講演会なども提供してまいります。皆様にはぜひそこから、小さくとも新しい興味の芽を見つけていただきたたく存じます。

今年一年が皆様にとってご多幸でありますことをお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

